

核兵器禁止条約元年、戦後 76 年の夏に一

『北の里から平和の祈り』原画とナガサキ原爆版画展

7月23日(金)～29日(木) 午前10時～18時

会場:奥井理ギャラリー 札幌市中央区旭が丘5丁目6-61

今年の1月22日**核兵器禁止条約**が発効しました。核兵器は使用はもちろん、開発しても保有しても、威嚇に使ってもダメ、核兵器は非人道兵器であり、絶対的な「悪」であると国際法で断罪された

のです。しかし、唯一の戦争被爆国日本はこの条約を批准していません。それどころか、アメリカの「核のカサ」の下にあることを公然と正当化しています。

被爆76年の夏を迎えました。いま**核兵器をめぐってさまざまなせめぎあい**が続いています。戦争と原爆の記憶は少しずつ薄らぎ、体験を語ることのできる人も少なくなりました。でも、私たちは決して忘れてはなりません。あの無謀な戦争によって、310万人もの日本人が亡くなり、2000万人を超えるアジアの人々が犠牲になったのですから。

北海道被爆者協会は再び被爆者をつくるなど、被爆の記憶の継承をめざし、昨年夏、こやま峰子さん作・藤本四郎さん画の**絵本『北の里から平和の祈り』**を発刊しました(北海道新聞社刊)。7歳のとき長崎で被爆したまり子はマリア像とともに吹き飛ばされ

ました。そのマリア像を大事に抱えて、おばあちゃんの親戚がいる札幌へ……。そのマリア像はいま北海道ノーモア・ヒバクシャ会館展示室に陳列されています。ノーモア・ヒバクシャ会館が誕生するまでを、まり子の成長とともに実にやさしいタッチの文と絵で描いています。英訳付きです。子供たちが原爆と被爆のことを考えることのできる恰好の絵本です。

また、4歳のとき長崎で被爆した**平方亮三さん**は、棟方志功にも師事した版画家です。函館に住んで今なお創作活動を続けています。平方さんはその時見た光景を板木に刻んで残しています。それぞれの作品が圧倒的な迫力で訴えます(右は「焔焔(えんえん)」、1989年)。

絵本の原画全16点と平方亮三さんのナガサキ原爆版画6点を展示します。ぜひこの機会にご覧下さい。



<関連企画> 原画・版画展、関連企画とも**入場無料**ですが入り口に**募金箱**を置かせて頂きます。

『北の里から平和の祈り』原画とナガサキ原爆版画展にあわせ、2つの関連行事を行います。

7月24日(土) 午後2時～

「『北の里から平和の祈り』が問
いかけるもの－原爆・戦争の絵本
に触れて－」

読み聞かせとお話:

佐藤広也氏(アニメーション研究会)



佐藤広也さんは現職の小学校教員、こやま峰子さんをヒバクシャ会館に案内し『北の里から平和の祈り』の制作をプロデュースしました。絵本や図書に詳しく、読み聞かせをしながら、絵本のなぜ?を解き明かします。夏休みの始まり、子どもたちの学びのスタートです。



7月25日(日) 午後2時～

松田ひとえ・平和の祈りコンサート

ピアノ伴奏:大和英嗣さん

出演:松田ひとえさん

久保田イク子・青木純子さん

松田ひとえさんは、家族全員が広島で被爆、結婚して紋別に転居した長女のもとに生まれた被爆二世です。様々な機会に親の被爆体験と二世としての自分の思いを語ってきました。

松田さんは地元旭川市でシャンソンの講師もされています。当日は、親の被爆体験と二世としての思いを語りながら、ジョルジュ・ムスタキの「ヒロシマ」、「長崎の鐘」「青い空は」などの平和の歌を中心に歌います。またお仲間の方たちもシャンソンの名曲を歌います。

奥井理ギャラリーは、地下鉄円山公園駅からバスに乗り「滋啓会前」で下車するとすぐです。ただ本数は少ないです。滋啓会の駐車場は利用可能です。

北海道被爆者協会 / 被爆二世プラスの会北海道

003-0029 札幌市白石区平和通 17 丁目北 6-7 北海道ノーモア・ヒバクシャ会館内

TEL/FAX011-866-9545